



LIBRARY

いわき総合高校図書委員会 平成30年9月号

今月のオススメ

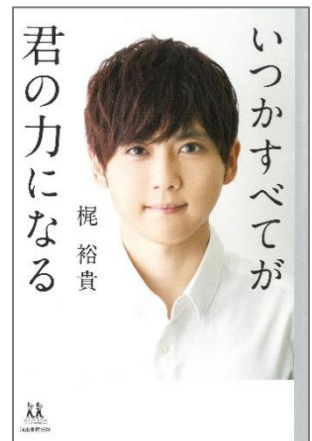


《いつかすべてが君の力になる》 著者：梶 裕貴

この『いつかすべてが君の力になる』は、現在ではアニメ『進撃の巨人』エレン・イェーガー役や『七つの大罪』メリオダス役を担当するなど、有名な声優となった梶裕貴さんが初めて書いた著書です。梶裕貴さんがどうして「声優」になったのか？ 夢を追い続けることで生じた困難をどうやって乗り越えていったか？ 夢を仕事にする方法が書かれています。

皆さんもそれぞれ違った夢を持っていますよね？ これから先辛いことや悲しいことも多いかもしれません。でも、それを乗り越えた先に明るい未来が待っていることを証明した本です！

アニメ好きはもちろん、将来の夢に不安を持っている人も勇気づけられる本となっています！ ぜひ読んでみてください！ (TH)



余談

梶さんは、今、若手声優の中で人気・実力を兼ね備えた最も有名な声優の一人です。『進撃の巨人』『七つの大罪』の他にも『僕のヒーローアカデミア』『マギ』『ポケットモンスター』等々、数多くの人気アニメの主要キャストの“声”を務めています。声優以外にもナレーターや歌手としても活躍しています。

本書は、本校図書館にもあります。図書委員のオススメ、ぜひ読んでください。ちなみに梶さんは、高校時代演劇部で活躍していたそうですよ。



～図書委員会から～



新しい本がたくさん入りました♪

期末考査も終わり、前期も終了間近です。暑さも和らぎ、読書には最適の時季ですね。新着図書もたくさん入りました。ぜひ、学校図書館へ足を運んでください！

金曜日昼休みは混雑します。なるべく金曜日のご利用は避け、他の曜日に借りに来てください。

開館時間 8:35～16:40
(※1人5冊 貸し出し期間2週間)



話題の本😊

◀ ファーストラヴ ▶ 著者：島本 理生 第159回 直木三十五賞受賞作

女子大生・聖山環菜(かな)は、キー局のアナウンサー試験に失敗した直後、画家である父親を刺殺した容疑で逮捕される。環菜は警察の取り調べに対し、「動機はそちらで見つけてください」と答えたという——。臨床心理士の真壁由紀は、この事件を題材としたノンフィクションの執筆を依頼され、環菜やその周辺の人々と面会を重ねていく。環菜のみならず、臨床心理士の由紀、由紀の義弟で環菜の弁護士・迦葉(かしょう)が抱える「家族」を発端とする“心の闇”が徐々に明らかに……。

終盤の息詰まる法廷劇も読み応え十分です。それもそのはず、裁判シーンが重要な役割を果たすため、島本さんは地方の裁判所へも何度も通ったそうです。裁判傍聴だけでなく、取材のために何人かの臨床心理士のカウンセリングも受けたそうです。臨床心理士の由紀の視点で物語が進んでいきますので、精神医学や心理学に興味のある人にオススメです。



◆図書日より編集部より◆

今回 2 度目の候補で直木賞を受賞した島本理生さんですが、芥川賞でも 4 回候補になっています。受賞時の会見で「18 年間、折に触れて待っていた。ほっとしました」と語っていたのが印象的でした。

みなさんには、有村架純と嵐の松本潤主演で映画化された『ナラタージュ』の原作者といった方が分かりやすいでしょうか。『ナラタージュ』は、2006 年版「この恋愛小説がすごい！」第 1 位と山本周五郎賞の候補にもなった作品です。驚くことに、『ナラタージュ』は 21 歳の時の作品です。

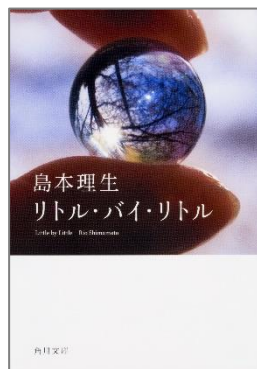
島本さんは小学生の頃から小説を書き始め、みなさんと同じ高校在学中に『シルエット』でデビューしています。思春期の傷ついた女の子、幼少時に受けたトラウマがもとで不安定な精神を抱えた女性を描いた作品は秀逸です。

中学生のときに精神科医の斎藤学先生の本に出会ったのがきっかけで、精神医学や心理学に興味を持ち、それらの本を読み漁ったそうです。いつか心理学をモチーフにした作品を書きたいとっていて、今回の『ファーストラヴ』でやっと実現したそうですよ。

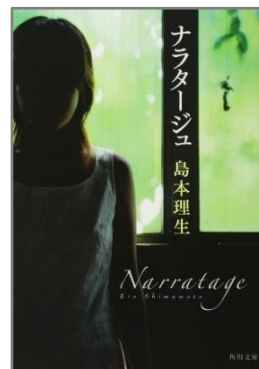
< 島本理生さんの主な作品 >



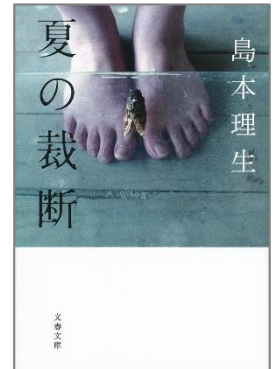
群像新人文学賞優秀作
2001 年



芥川賞候補
野間文芸新人賞
2003 年



山本周五郎賞候補
2005 年



芥川賞候補
2015 年

注：ナラタージュ【narratage】とは

映画用語。narration（ナレーション）と montage（モンタージュ）から

映画で、画面外の声に合わせて物語が展開していく技法。多く回想場面に用いられる。

（三省堂 大辞林より）